

年 組 名前：

問1

藤井聡太棋士は「棋聖」「王位」に続いて「叡王」の

タイトルを獲得し、初の10代三冠となりました。

これまでA棋士が持っていた最年少三冠記録を

B年ぶりにC何歳何カ月更新しましたか。

A 「 棋士」

B 「 年ぶり」

C 「 歳 カ月」

問2

記事に出てくる漢字の読み方を書いてください。

- |          |          |
|----------|----------|
| ・勝負 「 ）」 | ・保持 「 ）」 |
| ・対局 「 ）」 | ・挑戦 「 ）」 |
| ・防衛 「 ）」 | ・連勝 「 ）」 |

問3

増穂町(現・富士川町)出身で、「名人」「王将」など数多くのタイトルを

獲得し、日本将棋連盟会長も務めた棋士は、誰ですか。

正しいものに○を付けてください。

「 ）」 大山康晴 「 ）」 米長邦雄

「 ）」 加藤一二三 「 ）」 谷川浩司

## 藤井 初の10代三冠 叡王戦 豊島に3勝2敗

将棋の藤井聡太(19)が豊島将之(31)に挑戦していた第6期叡王戦5番勝負第5局は13日、東京都渋谷区の将棋会館で指され、111手で先手の藤井一冠が勝ち、3勝2敗で初獲得し三冠になった。19歳1カ月の3タイトル同時保持は最年少で10代初。全八冠のうち、三冠は現在の最多で渡辺明名人・棋王・王将(37)と並んだ。

新たにタイトルを奪取した藤井新叡王は「今シリーズは際どい将棋が多かった。記録のことは気にしていない。対局が続くので、前を向いて行けたらと思う」と話した。

これまでの最も若い三冠は1993年、羽生善治九段(50)の22歳3カ月で藤井新叡王は28年ぶりに更新。今回、5度のタイトル戦出場で、獲得が通算5期となった。

これで2021年度は、王位と棋聖を合わせ三冠以上が確定。挑戦を決めている竜王戦7番勝負(10月8日開幕)では竜王を持つ豊島前叡王と王位戦、叡王戦に続き3度目のタイトル戦となる。棋王戦、王将戦でも挑戦者争いに残っていて、最大六冠の可能性がある。

藤井新叡王は7月3日、棋

聖戦5番勝負で渡辺三冠を破り、初防衛と九段昇段をいずれも最年少の18歳11カ月で達成。王位戦7番勝負では8月25日、豊島前叡王に勝ち初防衛を果たした。

愛知県瀬戸市出身。16年、最年少の14歳2カ月でプロ入り。17年にはデビューから無敗で最多の29連勝を成し遂げ、豊島前叡王の初防衛はならず、竜王の一冠に後退した。

20年8月には王位を獲得し、最年少の18歳1カ月で二冠に輝いた。

豊島前叡王の初防衛はならず、竜王の一冠に後退した。

(2021年9月14日付 山梨日日新聞 26面)

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します

Copyright © 2021 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.